

## 中野山遺跡（第13次） No.3

発掘調査が終了しました。

所在地：四日市市北山町

位置情報URL：<http://www.gis.pref.mie.lg.jp/mmm/index.html?z=128&l1=35.047974537037035,136.58725141242937>

※発掘調査は終了し、工事が始まっていますので中に入れてません。



調査区全景とその周辺（上空 南西から）

中野山遺跡の発掘調査は、本年度で全ての範囲を終了しました。

第13次調査区では、主に縄文時代後期や古墳時代後期から飛鳥時代の遺構（むかしの人々の生活のあと）を確認しました。その中で残りのよいものを紹介します。

### 【縄文時代後期（約4,000年前）】

ドングリやヤマイモ等を貯蔵していたと思われる穴を1基発見しました。穴の上部がすぼまり、袋状のめずらしい形をしています。中から縄文時代後期の土器のかけらが出土しました。



縄文時代後期の袋状の穴（上）と土器（下）



【古墳時代後期から飛鳥時代（約 1,300～1,500 年前）】

調査区の東側で<sup>たてあなじゅうきょ</sup>竪穴住居15棟、<sup>ほったてばしらたてもの</sup>掘立柱建物16棟、大きな穴（土坑）を発見しました。

竪穴住居にはカマドの跡が見られるものもありました。そのカマド周辺から、米などの食べ物を蒸すための「こしき」という土器や煮炊き用の<sup>かめ</sup>甕、<sup>かめ</sup>甕を支えるための石（<sup>しちゆうせき</sup>支柱石）が出土しました。当時の台所の様子を知る貴重な発見です。

竪穴住居や掘立柱建物の中には、方向を同じにするものが数棟見られました。出土した須恵器や土師器からも同時代のものと考えられ、計画的に建てられたことがわかりました。



カマドのある<sup>たてあなじゅうきょ</sup>竪穴住居



カマド周辺から出土したこしき

☆中野山遺跡のこれまでの調査をすべて合わせると、縄文時代早期（約 10,000 年前）の<sup>えんどう</sup>煙道付<sup>つき</sup>炉<sup>ろ</sup>穴<sup>あな</sup>が 173 基見つかったほか、縄文時代から奈良時代までの住居跡が 265 棟見つかっており、複数の時代にわたって生活が営まれていたことがわかりました。



カマド内に立つ<sup>しちゆうせき</sup>支柱石



<sup>ほったてばしらたてもの</sup>掘立柱建物



中野山遺跡は北勢地方では最大級の集落遺跡なんだね。



問い合わせ先：

〒512-8064 三重県四日市市伊坂町 126-1

三重県埋蔵文化財センター 調査研究3課 四日市整理所

電話番号：059-363-3195／ファックス：059-363-3196

e-mail：[maibun@pref.mie.jp](mailto:maibun@pref.mie.jp)